



ペンネーム	ゴウチャン
<b>【エピソードのタイトル】</b>  歳月を越えて歴史ある街を・・・	
<b>【エピソードの内容】</b>  <p>今から、37 年前の昭和 49 年 1 月の冬、私は初めて下関の地を踏んだ。目的は大学受験、結果は昭和 49 年～53 年までの 4 年間を下関市の外れにある山陰の下関市吉見永田郷という所で過ごすことになった。</p> <p>冬は、竜王山からの木枯らしが吹き荒れて、とても風が強く寒い土地柄であったことを覚えている。月に一度の仕送りやアルバイトの収入が入り、懐が多少暖かくなると、当時懐かしい蒸気機関車に乗って下関の街へとくりだした。</p> <p>私は、この町がとても好きで、いつかこの地で暮らせたらいいいと考えるようになっていた。古い駅舎や町並みは歴史を漂わせ、フグの水揚げが日本一の大和市場や唐戸の魚市場は朝早くから活気に満ちていた。また、夜になるとあたり一面はネオンでいっぱいになり、遠洋漁船の船員たちや任侠者が明け方まで闊歩していた。</p> <p>大学を卒業と同時に下関の地を離れ、早や 33 年経ったが人生は思い描いた通りには行かず、故郷の大分県で大部分を過ごす結果になってしまった。以来、幾度か懐かしいこの地を訪れたが、来るたびに街の景観も大きく変化し、昔の面影が消えてしまうことに一抹の寂しさを覚えた。</p> <p>12 年前の 43 歳頃から、趣味のジョギングを始めて 45 歳でフルマラソンに初挑戦して以来、今回で 21 回目のフルマラソンになる。この下関海響マラソンの大会が始まってから、いつかここで走りたいと考えていたが、やっと念願が叶い、大会初参加のエントリーを無事にすることができた。ランナーの目線で懐かしい下関の町を走れることに感動と感謝の気持ちで一杯だ。</p> <p>昨年は 54 歳で思いもかけず愛媛マラソン 2 時間 59 分台でサブスリーを果たし、今年の第 60 回別府大分毎日マラソンにも初出場を果たすことができた。今度は、33 年の時を越えて若き時代を過ごした海響の町を駆け抜ける。このように頑丈な体に育ててくれた今は亡き父母に感謝しつつ、年も考えず 55 歳サブスリーを目標に今年も暑い夏をひたすら練習に明け暮れる日々である。</p>	